令和6年度　島根県立松江東高等学校　学校評価表

評価計画								R7アンケート評価				R6年度末自己評価				学校関係者評価		R7年度への改善策
令和6年度教育目標	分類	令和6年度の重点目標と具体策	主となる分掌、学年会	内容	令和6年度の具体策と指標	評価指標と基準	評価 生徒	保護者	教員	総合	評価	成果	課題	総括	評価	意見	
人とつながって生きる力を向上させる（人間力）…多文化協働力	1	支持的風土の醸成、人権教育の推進	**生徒部**、学年会	人権・いじめ・モラル教育（規範）	時間を遵守し、場に応じた言動を心がけ挨拶を励行させる。生徒の心身の不調を把握し、不適応にいち早く気づけるようにする。人権感覚や人権意識の精神を高める。情報社会において安全に情報を活用するための知識と技術を身につけさせる。	・生徒の感想文。 ・生徒アンケート・保護者アンケートの評価。 ・いじめアンケート、生活アンケート等の実施と分析。	A	A	B	A	A	・生活アンケートやいじめに関するアンケートを実施することで、生徒の課題や問題を早期に把握し共有することができた。その結果、迅速に対応することができ、大きな問題に発展することは少なくなった。 ・基本的生活習慣の確立状況として出席率で判断すると、例年より良くない。	・アンケートにより心身の不調等に早期に気づけても、その後、例えばカウンセリングの強化や家庭との連携をより深めるなど、どのように支援に繋げるかが課題である。 ・安易に欠席する生徒が増えている。低学年での初期指導がとても大切だと考える。	全体的に、掲げた具体策に対する取り組みは一定の成果を挙げたが、特に継続的な指導と支援が今後の課題である。特に、アンケート等で明らかになった生徒の心身の不調への対応や、人権尊重の精神をさらに深めるための活動の強化が必要である。	A	・部活動、進路など素晴らしい結果を残した1年であった。要因の一つに部活動の活性化があると考える。 ・地域連携の仕掛けをたくさんやってもらっていることが心の3大欲求（自己決定、つながり、有能感）を満たし、生徒たちの心も豊かになっていると感じている。 ・様々な取組により、生徒保護者共に満足する成果を出すことができているのは素晴らしい。 ・豊かな人間力を築くためにk素から積み重ねるプランに感銘した。 ・生活習慣、いじめ、カウンセラーについて生徒・保護者も高い評価である。学校生活の基本が成熟していると感じる。 ・他者とのつながりは他校に比べて格段に強い、素晴らしい活動ができている。 ・いじめアンケート、生活アンケートを活用して早期発見、早期対応していて、安心（生徒・保護者・教員）を図っていると感じる。	学習時間調査を実施後に教務部から教員や生徒への働きかけが不十分であった。調査後に、担任または副担による短時間の面談を行ってもらい、学習量についてだけでなく、どのような学習をすべきかという点についてもアドバイスを行っていく。また、1・2年生にはオンライン学習用のアプリを導入する。効果的な学習用アプリの使用方法を例示し、家庭学習の充実を図りたい。また、来年度も公開授業を実施し、校内に留まらず近隣の中学校や大学にも案内を行っていく。公開授業の後には教科会などで授業の振り返りを行い、単なる実施で終わらないように努めたい。また、今後も授業改善に関する研究と実践を進め、学校全体でより効果的なICTの活用方法を探求していきたい。 　来年度も引き続き、「生活アンケート」や「いじめのアンケート」を活用し、安心・安全な学びの環境づくりに役立てていきたいと考えている。しかし、これまで情報共有が全教職員に十分に行き届いていなかったため、対応がほとんど学年会にとどまっていたように感じる。生徒一人ひとりに対して、より多くの教職員が関わることができるよう、「情報の見える化」を進め、より効果的な支援を行っていきたい。
	2	活躍の場がある環境作り/居場所のある環境作り/安心・安全な学びの環境作り	特別支援教育の推進、生徒理解の充実と組織的支援	**保健部**、学年会	衛生・保健・特別支援・SC、学校安全	タイムリーな保健情報を掲載した保健便りを発行する。関係職員と連携協力を図り、スクールカウンセラー並びに生徒支援委員会を効果的、効率的に活用する。生徒保健委員会の活動として感染症対策やこみの持ち帰りを呼びかけ、感染症対策の徹底や環境美化の意識を高める。	・対象生徒の状況。 ・スクールカウンセラーの活用状況。 ・気づきシートや支援計画・指導計画の作成と活用状況。・生徒面談の回数、状況	A	A	A	A	A	・学年会と連携し、支援が必要な生徒・保護者・教職員の相談の機会を確保し、適切にSCによるカウンセリングが実施できた（6/9・94時間1月24日現在）。 ・生徒支援委員会の実施（定例6回、臨時5回）を通して、必要な配慮や支援について校内で共有を図り、通級指導や教育相談に繋いだり、多様な学習ニーズにあわせた支援に繋ぐことができた。 ・気になる生徒について学年会で共有した上で組織的な対応が出来た。「多様な学習ニーズ」の説明等、管理職の指導のもと見通しを持った指導を行うことが出来た。 ・学校評価(質問3　生徒)の肯定的評価は86.3%(昨年度83.1%)。	・全ての生徒と保護者にSCや相談機関(ルームなど)についての周知を徹底し、迅速かつ適切に支援を進めることが大切である。そのために、生徒支援委員会と学年(次)会と連携し、対象生徒の状況を把握し、課題と共有して、生徒・保護者・教職員を相談の場や気軽に利用していく。 ・全ての生徒に対して十分な回数や時間の面談時間を確保することが課題である。	・生徒ポータルを活用して計画的かつタイムリーに適切な情報提供を行い、また生徒ポータルからSCによる教育相談の予約を可能にし、利便性を高める。あわせて教職員よる丁寧な情報収集と声かけを図る。 ・主に教育的支援は教員、心理的支援はSC、福祉的支援はSSWや学校福祉連携推進教員が担ってくが、生徒支援委員会と学年(次)会の運携を通して、より適切な具体的支援に繋げていく			
	3		部活動の活性化、生徒会や生徒発の活動の推進	**生徒部**、学年会	学園祭、生徒会活動、ボランティア活動、部活動	生徒会や委員会活動、校外での活動など生徒が主体的に関わり実践する活動の機会を増やす。生徒会を中心とした生徒主体のいじめ防止活動を実施する。あいさつ運動・学期に1回以上。各種ボランティア・学期に1回。	・部活動加入状況。 ・HPや学校だよりでの情報発信の状況。 ・生徒アンケート・保護者アンケートの評価。	A	A	A	A	A	・生徒保健委員会が放送による感染症対策や熱中症対策など、現状を踏まえて呼びかけを継続的に行った。また、ごみの持ち帰りにより、感染症予防やごみの減量化を図ることができた。 ・「生徒の健康や安全に配慮している」についての学校評価(生徒)の肯定的評価は90.7%(昨年度85.3%)。	・ごみの持ち帰りは概ね良好であるが、時折、使用済ティッシュやマスクが捨てられていることがあった。また、一部のクラスや教室でごみの分別が不十分であった。今後も生徒保健委員会の活動を通して、感染症予防対策の徹底とごみ持ち帰りやごみ分別の徹底を働きかける。 ・自転車通学時の安全に対して生徒達へのさらなる啓発が課題である。	・保健だよりや呼びかけ放送による啓発を継続する。 ・ごみの分別については、引き続き生徒部、部顧問会、事務部と連携し、ルールが守られるよう指導する。			
	4	確かで高い学力の育成～授業改善～	教科学習、進路実現とのさらなる連携	**教務部**、**進路指導部**、学年会	ETC.模試、放課後補習、土曜講座	各学年70%以上の生徒が達成「本校では、ETCや模擬試験などあるいは放課後補習や土曜講座などが効果的に行われていると思いますか。」に対して肯定的評価80%以上	・学習時間調査の結果。 ・学習成績、実力テスト成績。 ・生徒アンケート・保護者アンケートの評価。	A	A	C	B	B	・ETCの合格率が低い傾向が続いている。試験の課題は提出するが、課題の内容を十分に理解しようとせず、学習不足のまま受験している生徒も少なくないと思われる。 ・学力を身に付けるには時間がかかることを意識させ、コツコツ取り組ませることが課題である。	ほぼ計画通りにETCを実施することができた。	生徒や保護者からの評価は高く、学力の向上を目的としたETCや各種講座の実施に対する要望があると考えられる。しかしながら、課題に十分取り組ませずにETCや各種講座に臨んでいると思われる生徒も多数見受けられる。学年会や進路指導部と連携を強化し進路意識を高めるとともに、生徒が主体的に学習に取り組む意欲を向上させる支援を行う必要がある。 ・(3年)放課後の講座開催で学習習慣や学習量が飛躍的に伸びた生徒も多くいた。	A	・学習時間の確保は、生徒自身の意識向上がに1ずれば難しい。引き続き強化してもらいたい。 ・生徒が活字から離れていくという課題は大学でも共通である。協力して取り組んでいきたい。 ・高校生はひたすら体力と学力をつけることに専念すべき。その中で情操や社会性は自ずと育まれるものと思います。 ・教職員の講師、過小評価をもっと肯定してよい。 ・興味＝学習意欲を持てるように大人や企業との関係を増やしてもらいたい。興味さえあれば自主性を持って深く学ぶと思われる。自主的人財育成も同様の考え方で実践していく。 ・探究などは必ずしも高校の段階で答えを出す必要はない。大切なのは高校の段階でどれくらいのことを身につけて送り出すかである。 ・家庭学習15～20時間は信じられなく少ない。 ・学校活動を通して生きる力を育成することにより、自己実現が図られている。	生徒のETCに対する意識を向上させるためには、学習意欲の向上だけでなく、進路に対する意識も高めることが重要である。教学や英語の教科指導に依存するのではなく、進路指導部や学年会との連携を強化し、生徒の学習意欲をさらに高める努力をしていく。 　学習時間調査を実施後に教務部から教員や生徒への働きかけが不十分であった。調査後に、担任または副担による短時間の面談を行ってもらい、学習量についてだけでなく、どのような学習をすべきかという点についてもアドバイスを行っていただく。また、1・2年生にはオンライン学習用のアプリを導入する。効果的な学習用アプリの使用方法を例示し、家庭学習の充実を図りたい。 　オープンキャンパスツアー、放課後の時間を活用した分野別進路講演会（外部有識者）、進路の手引書「合格体験記」を積極するなど、生徒自身の意識向上に繋がる企画を実施し、家庭学習時間増加につなげたい。
	5		家庭学習との連動	**教務部**、学年会	家庭学習時間、主体化	1・2学生は「週15時間以上」、3年生は「週20時間以上」を目標とし、各学年70%以上の生徒が達成。	・学習時間調査の結果。	B	B	D	B	B	定期的に学習時間調査を実施し、生徒の家庭における学習状況を把握し、学習時間調査結果を集計し、まとめたデータを全体に提供することができた。モクスロnavi上に生学習補助教材の導入及び検討を行い、生徒が主体的に学習に取り組めるようICT環境を整えた。	家庭学習時間調査を行った後、その結果を基に状況を改善するための方策を検討したり、具体的な改善策を提案して実行に移すことができなかった。	本校の生徒における学力の低下傾向が、家庭での学習時間の減少や模擬試験の結果から認識できる。学習に意欲的に取り組むことができていた生徒だけでなく、学習に意欲的に取り組めていない生徒が共に積極的に学び向えがっていけるよう、周者に対して具体的な支援をしていく必要がある。			
	6		授業研究等の充実、観点別評価の工夫と改善、ICT活用教育の推進、	教務部、学年会	ICT機器利用、授業改善	公開授業を、各教科で2回以上（芸術・家庭科は1回以上）実施する。「主体的・対話的で深い学び」を意識した公開授業アクティブラーニング、ICTを取り入れた公開授業。合評会を行い教科内外の共有を図る。	・公開授業・授業研究の実施・参観状況。校外研修、研究会等への参加状況。	A	A	A	A	A	公開授業、授業研究の実施、ICT活用の研修、先進校視察など授業改善につながる研修を実施することができた。	公開授業後の協議の実施や、授業者に対して授業の意見や感想等を速やかに伝えることができなかった。 ・生徒の成績が上がるような使い方が必要。	・校内での研修だけでなく、限られた人数ではあるが教育指導課主催の「授業力向上プロジェクト」のような研修に参加することを通して授業力向上を図ってきた。また、スクールタクトなどICT活用研修を行い授業に効果的なICTの活用法を模索してきた。今後も教員の授業力・指導力を向上を目指した研修を継続していく。 ・1・2年次から知識の習得の大切さをETC等を活用して徹底的に指導することが大切である。最後はどれだけ自分が学習に向かうか、その動機付けを教員が行うことが大切である。			
	7		広い視野と豊かな感性の育成　図書館の利用促進、読書の推奨	魅力化推進部、学年会	図書館活用	学習センターの環境(資料・ICT)の整備に努め、広報活動（学習センター便り・HP発信）を活発化し、生徒が主体的に本を借りて読むための雰囲気を醸成するとともに、学校図書館に対する保護者の理解を深める。	・「本を借りたことがある。」生徒が60%以上になる。（成果指標） (参考)「一度でも本を借りたことがある。」生徒の推移R3:44.29%、R4:56.5%、R5:42.0% ・保護者アンケート(項目9)における回答「わからない」を減らす。（成果指標） (目安)R5:43.6%(218人/500人中) を20%以下。	A	A	A	A	A	・「一度でも本を借りたことがある生徒」率の推移 R3:44.2%(R4.3.31) → R4:49.8%(R5.1.26)　→ R5:37.4%（R6.1.17）→ R6:35.9%(R7.1.29) ※R4：56.5%(R5.3.31)　※R5:42.0%(R6.3.31) R6も3ポイント増える見込みはあるが、昨年同時期に低かった。現2年は、1年時とほぼ変わらず。現1年は、昨年の1年より増りている。現3年が、2年時より増りていない。 （昨年は、面接・小論文対策の書籍の貸し出しが多かったが、今年は、ほとんど借りられていなかった。） ・貸出冊数で見ても、「R4:1432冊　R5：1392冊、R6:1100冊（同時期）で減り、全生徒の借りる冊数が減少していることが読み取れる。 ・放課後において自習する3年生以外の居場所としても利用されている。 ・保護者の肯定的評価は改善されたが（R5:79.1%→R6:85.9%）だけでなく「わからない」も減少した （R5:43.6%→R6:31.2%）。	・授業（各教科）における図書館の利用に偏りがある。定着している授業は、保健体育・選択音楽が　挙げられる。貸出冊数を増やすためには、教科での図書館利用のアナウンス・声掛けといった手段　が考えられるが、その余裕がないと思われる。 ・図書館活動の様子をHPにあげるようにしたことが、保護者の評価に影響しているかもしれない。 　しかしながら、HP更新の原稿作成自体は、労力を要することである。	図書館に関わる広報活動は保護者評価を中心に改善されたため、一定の成果があったと思われる。 一方で、本を借りない生徒が増加傾向にあり、1冊でも借りるためのしかけ(授業との連携、キャリア教育との連携等)を検討する。例えば、時期に応じたブックリスト全学年会に連絡し、朝終礼や面談で生徒への声掛けをしていただく。			
	8		キャリア教育の3年間の見通しとねらいの明確化、振り返り	**進路指導部**、学年会	進路指導全般、模試分析、大学共通テスト対策、保護者への情報提供	模試等の学力分析を行い、各教科、学年会と具体的な施策を立案し、実践する。請活動への取り組みを進路実現に生かす。進路の手引きを見直す。上級学校や受験環境に関する情報収集に努め、生徒、保護者への情報発信を行う。	・教科・学年に対して、入試制度共通テスト研修の機会や有効な資料を提供する。 ・70人(約40%)以上の生徒に国公立大学に合格可能な学力を付ける。 ・補習科全員の志望校合格・2年生終了までに校内外での活動を生かした志望理由書が書ける。 ・へるん入試などの活動歴を生かした受験を勧める。・昨年度作成し、使用した手引きの伏況を振り返り見直しを行う。面談やLHRを利用し活用する。進路シラバスを掲示し、年間計画を共有し、進路行事を円滑に実践する。 ・各学期1回以上は進路ジャーナルを発刊する。	A	A	A	A	A	・模試分析は例年通りできた。 ・新課程共通テストにも対応できた。 ・共通テストで全国甲均を超えた受験生は31人（18%）で500点（5割）を超えたのは79人であった。（昨年50人）	「進路の手引き」の活用に課題がある。費用面から印刷を行わなかったが、使い勝手が悪かった。 ・大学の入試を突破して合格を勝ち取るのに必要な学力等を知らせ、それに向けて実際に勉強を開始する生徒たちをさらに増やす仕掛けが必要である。	・総合型入試に向けての対応を強化する必要がある。学年会や他の分掌と協力して、1年次からの継続的な取り組みが必要。進路シラバスや模擬試験結果、進路希望調査を活用した面談やホームルーム活動を強化する。 ・総合型選抜も最後は学力だと痛感した。1．2年生の定期試験をしっかり勉気させることがとても大切だと感じた。			
	9		教育環境、生活環境、職場環境の整備と快適化	**総務部・事務部**	生徒募集、PTA活動、施設管理	・学校行事の調整や来務内容の整理を行う。 ・各行事についてPDCAサイクルを活用し次年度への修正につなげる。 ・PTAの委員会活動を中心として、保護者の参加を増やす。中学校訪問やオープンスクールを通じて、情報を発信する。	学校評価の教職員アンケートの項目11への肯定的評価が80%以上 Sの中学生アンケートの項目への肯定的評価が95%以上	A	A	A	A	A	・事務部と連携し、気づいた不備な点について認識を共有したことで、改善への手がかりとなった。PTA総会の資料印刷の外部発注をやめ、別のことに予算を振り向けた。	・PTA活動において、主に印刷費でほかにも縮減できるものがあるかもしれない。 ・限られた予算のなかで執行するため優先順位をつけるをえない。	PTAの活動自体の縮小は考えないが、実施方法等を工夫して、より効果的な予算の活用を検討していきたい。			
自己の未来を切り拓いていく力を向上させる（学力）…主体的学習者としての、探究的学習力	10	確かで高い学力の育成～授業改善～ 地域への貢献意欲を向上させ、地域に信頼される学校づくりを行う。	キャリア教育の3年間の見通しとねらいの明確化、振り返り	**魅力化推進部**、学年会	高大連携、キャリア教育	地域の人材・団体や関係分掌・学年部等と連携し、3年間を見据えた「総合的な探究の時間」等のプログラムを適切に運用する。	教職員・生徒アンケート(項目10,12,13,14)及びルーブリック評価で、学校生活全般　の活動をとおして生徒につけさせたい資質・能力等の成長が見られる。（成果指標）	A	A	A	A	A	・キャリアパスポートでのルーブリック評価 ⑥自分の生き方を考える力(1学期→2学期) 1年生(2.25 → 2.62) 2年生(2.58 → 2.88) 3年生(3.17 → 3.33) ④諦めず追究する力(1学期→2学期) 1年生(2.38 → 2.61) 2年生(2.66 → 2.79) 3年生(2.64 → 2.90) は例年同様であり、生徒が成長を実感できているだけでなく、プログラムの定着を感じる。	・総授のスケジュール上学習（模試など）のスケジュールへの配慮がしきれず生徒にとって学習スケジュールが立てにくい面があったのではないか。 ・図書館活動やライフデザイン探究におけるクラス展開が重なり、教務部での時間割調整が困難となることがあった。各活動の実施時期について、検討したい。	総授だけ、HR活動だけという視点ではなく、複数の活動を俯瞰しつつ年間の活動計画を立てる。また、教務部への連絡を早期に行う。	A	・生徒自身の感じ方も含めて成長している姿が見えているところは東高らしい活動ができている成果である。 ・情報発信についての課題は財政面、人的にも難しい点が多い。可能なものから取り組んでもらいたい。 ・評価も高くとてもよい。 ・部活動、地域との連携により自制心、やり抜く力、忍耐力、協調性が育成されつつある。様々力が育ちつつあるように感じる。 ・多くのことに取り組んでおり、一つ一つが繰り込まれている。この活動を保護者が知らないのはもったいない。 ・最近は「こなす」学生が増えてきている。主体性を大切にしてもらいたい。主体性を育てるためには疑問を持つことである。予どもたちがどこで疑問を持って、あのときは重要だったと気づくかは長いスパンで考えればよい。	計画立案時においては、総合的な探究の時間やHR活動計画など、それぞれの計画を見るだけでなく、複数の活動計画を俯瞰して計画立てを行う、また、円滑な実施ができるように、教務部への時間割変更依頼を早期に行う。
	11		探究学習の3年間の見通しとねらいの明確化、振り返り	**魅力化推進部**、学年会	地域活動、ボランティア	自己有用感の向上を目指し、多様な価値観とふれあう機会を確保する。		A	A	A	A	A	・保護者評価、生徒評価は高い値で安定しつつあり、取組が認知されている表れか。 ・多様な高大連携の取り組みを実施し、生徒のライフデザインを考えるうえで役立つ機会を用意することができた。また、プログラム全体が安定してきて、運用面でのやりにくさが軽減している。 ・評価の高さは保ちつつ保護者の「わからない」が、項目13で「R5:17.2%→R6:12.6%」、項目14で「R5:21.2%→R6:16.9%」と減少した。本校の取組への理解が広まっていると思われる。 ・大学生や地域の大人と話ができる機会が増え、生徒自身の考えをブラッシュアップすることができている。特に、2年のライフデザイン探究では、秋の研修旅行で関係性ができた方との面談をオンラインで取り入れることができた。生徒が意欲的に取り組んだ。 ・総合的な探究の時間等、大人と関わる機会を通して、自己を知り、将来に向けて自分を考えることができた。	・項目12において教職員の肯定的評価が「R5:95.3%→R6:87.5%」と低くなっている。 　2年現系クラスでの総探における探究テーマや活動が、進路につながりにくいものになっている　ことが影響しているのではと推察している。 ・探究活動自体が、地域の課題を主題としているために、比較的文系寄りな主題だと感じられる。理系の生徒たちの興味関心を引き出す指導が課題だと感じた。	プログラム定着の効果として、成果発表会のワークショップや2年のライフデザイン探究等、学年を超えた関わりの場面で、上級生が役割や活動内容を理解して下級生へ助言することができるようになり、各活動の充実を感じる。調整の手間はかかるが、学年を越えた関わりの場面づくりは継続的に行いたい。			
地域社会の今と未来に関わる力を育成する（社会力）…社会的自立力、地域共創力	12		ホームページや学校便り等により積極的に情報発信を行う。	**総務部**、**保健部**、**魅力化推進部**	ホームページ、広報。	本校の教育活動に対する保護者等の理解を深めるために、HPにおける情報発信を活発化させつつ、SNSを利用したプッシュ型の情報発信を取り入れる。	保護者アンケート(項目15)における回答状況を好転させる。（成果指標） (目安)R5.肯定的評価84.2%(399人/500人中) を90%以上。評価4:18%(90人/500人中)を30%以上。	A	A	A	A	A	・保護者の評価では、数値的には A評価ではあったが、記述意見を見ると、特にホームページでの情報発信が不十分という意見が多く、中学生にも同様に写っていることと思われる。実際にそこまで手が回っていない、他のコーディネーターを置いている学校が積極的にHPで情報発信しているのは知っているが、本校の現状ではそこに労力を割く余裕がない。 ・HP更新において部活動の更新ができていない裏因の一つは、顧問による原稿作成・業績といった　手続きがされていないこと、HP担当からの呼びかけができていないことが考えられる。 ・SNS等での情報発信については、年度当初に検討をしたが、手続きや費用面のこともあり、　先延ばしにしたままで、実現ができなかった。 ・感染症予防の啓発とともに、現代の健康課題や青年期の課題、社会情勢を踏まえた内容を充実させると、引き続き、朝終礼や授業の中で触れることができるよう、タイムリーな情報を提供していくことが課題である。	・外部へのアピールは大切であるが、教育活動を優先と考え情報発信が十分でないところがあった。対外的な部分を密にするために、教員以外でできることをアシスタントやコーディネーター等に依頼することなどを考えていきたい。また、発信力を高めるために、引き続きSNS等の活用も検討していきたい。 ・生徒保健委員会やSCと協働して保健情報の内容を充実させる。また、生徒ポータルを活用するなど、情報提供の方法を工夫する。 ・HP記事作成の意識向上のため、定例の職員会議の連絡としてHP原稿の提出方法を毎回掲載し、教職員へ呼びかけ続ける。	B	・部活動の継続と新たな挑戦ができている。 ・地域連携の仕掛けをたくさんやってもらっていることが心の3大欲求（自己決定、つながり、有能感）を満たし、生徒たちの心も豊かになっていると感じている。 ・様々な取組により、生徒保護者共に満足する成果を出すことができているのは素晴らしい。 ・豊かな人間力を築くためにk素から積み重ねるプランに感銘した。 ・生活習慣、いじめ、カウンセラーについて生徒・保護者も高い評価である。学校生活の基本が成熟していると感じる。 ・他者とのつながりは他校に比べて格段に強い、素晴らしい活動ができている。 ・いじめアンケート、生活アンケートを活用して早期発見、早期対応していて、安心（生徒・保護者・教員）を図っていると感じる。	生徒支援委員会と学年(次)会の連携をさらに進め、より適切な具体的支援に繋げていく。 ごみの分別とごみの持ち帰りは、保健だより や呼びかけ放送による啓発を継続する。 生徒会の活動により、学校が生徒にとって「過ごしやすい環境」になることを期待し、来年度も引き続き、積極体に生徒会と連携しながら、学校全体の雰囲気づくりに努めていきたいと考えている。現在、世間では「校則の見直し」が積極的に進められており、本校でも生徒一人ひとりが意見を発信しやすい環境を整え、生徒の声を反映させた校則の見直しを進め、学校環境づくりをさらに充実させていきたい。